

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3649826号  
(P3649826)

(45) 発行日 平成17年5月18日(2005.5.18)

(24) 登録日 平成17年2月25日(2005.2.25)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

B 6 5 D 41/04

F I

B 6 5 D 41/04

A

B 6 5 D 41/04

C

請求項の数 1 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平8-312723	(73) 特許権者	000006909
(22) 出願日	平成8年11月8日(1996.11.8)		株式会社吉野工業所
(65) 公開番号	特開平10-139052		東京都江東区大島3丁目2番6号
(43) 公開日	平成10年5月26日(1998.5.26)	(74) 代理人	100105326
審査請求日	平成14年5月31日(2002.5.31)		弁理士 吉村 眞治
		(72) 発明者	山森 新次
			大阪府茨木市宇野辺1-6-9株式会社吉
			野工業所大阪工場内
		(72) 発明者	松本 正春
			大阪府茨木市宇野辺1-6-9株式会社吉
			野工業所大阪工場内
		審査官	川本 眞裕

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内容液注出容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

容器口部外周にネジを刻設した容器と、容器口部上端に被嵌され、上面に注出筒を設けた中栓と、容器口部外周に螺合され、頂壁内面に注出口を閉じる密封リングを設けたキャップとからなる内容液注出容器において、

容器口部外周に刻設したネジの上始端部に、所定の傾斜角を有する立上がり部を形成し、キャップの嵌着筒内周に刻設したネジの上終端部に、前記立上がり部と接合する傾斜面を形成しストッパ部とし、

中栓の注出筒外側に、外方に突出する膨出部を設けた係止リングを立設し、

キャップの頂壁内面の密封リングの外側に、前記膨出部に係合し、内方に突出する膨出部を設けた係止リングを垂設したことを特徴とする内容液注出容器。

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、内容液注出容器、とくにネジ式キャップによって被嵌した注出容器において、キャップ締着時の位置決めをネジ端に配設したストッパ部により位置決めするようにしたキャップを備えた内容液注出容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

容器の口部に注出筒を立設した中栓を嵌着し、その上をキャップで覆うように被嵌した内

20

容液注出容器は従来より周知であり、キャップの位置決めについても多くの提案がなされている。

その一例として、図 9 に示すような容器が提案されている。

図において、A 1 は容器であり、容器口部 4 0 には、嵌合突条 4 1 とネジ 4 2 が設けられている。

容器口部 4 0 の下端には、拡径部 4 3 が設けられ、その外周の円周上の所定位置にストッパ用突起 4 4 が設けられている。

【 0 0 0 3 】

B 1 は中栓であり、前記容器口部 4 0 に被嵌される嵌着筒 4 5 と上壁 4 6、および容器口部 4 0 内周に嵌合される嵌合筒 4 7 とを具えており、嵌着筒 4 5 の内周には、嵌合突条 4 1 に係合する嵌合突条 4 8 が設けられている。

10

上壁 4 6 の上面中央には、注出筒 4 9 が立設され、その内周は注出孔 5 0 となっている。

【 0 0 0 4 】

C 1 はキャップであり、キャップ C 1 の嵌着筒 5 1 には、その内周に容器口部 4 0 のネジ 4 2 に螺合するネジ 5 2 が刻設されており、その外周の円周上の所定位置に、嵌着筒 5 1 の上端から下端に延び、さらに下端より下方に延びる係止リブ 5 3 が設けられている。

頂壁 5 4 下面には、螺合締着時に中栓 B 1 の注出筒 4 9 内周に嵌合し注出孔 5 0 を密封する密封リング 5 5 と、中栓 B 1 の上壁 4 6 に接合する係合リング 5 6 が設けられている。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

20

上記容器は、締着時におけるキャップ C 1 の上下方向の位置決めを、係止リブ 5 3 をストッパ用突起 4 4 に衝接させ、キャップ C 1 の位置決め方向を円周方向にすることによって、従来の単に上下方向に位置決めするもの、例えば図 9 の係合リング 5 6 を中栓 B 1 の上壁 4 6 に衝接させて位置決めするようにしたものに対して、キャップ C 1 の位置決め精度を一層高くしたものである。

【 0 0 0 6 】

しかしながら、上記容器では、容器口部 4 0 の下方に拡径部 4 3 を形成し、該拡径部 4 3 にストッパ用突条 4 4 を設け、係止リブ 5 3 をキャップ B 1 の嵌着筒 4 5 の下端より下方に延びるようにしているので、容器口部の高さ方向の寸法が大きくなり、また、キャップの高さも大きくならざるを得ないという問題があった。

30

また、キャップの締着時に、従来のキャップのようなフィニッシュ感がでないという問題があり、使用者にとってはキャップが完全に閉められたか否かが分からず不安感が残されるという問題が生じてきた。

【 0 0 0 7 】

本発明は、上記の問題点を考慮して、キャップの位置決め方向を円周方向として位置決め精度をあげるとともにキャップの高さを低くし、従来の容器と同様のフィニッシュ感を与えるようにすることを技術的課題とし、新規な内容液注出容器を提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

40

本発明は、上記の技術的課題の一つであるキャップの位置決め精度をあげるために、容器口部外周にネジを設けた容器と、容器口部上端に被嵌され、上面に注出筒を設けた中栓と、容器口部外周に螺合され、頂壁内面に注出口を閉じる密封リングを設けたキャップとからなる内容液注出容器において、容器口部外周に刻設したネジの上始端部に、所定の傾斜角を有する立上がり部を形成し、キャップ嵌着筒内周に刻設したネジの上終端部に、ネジ溝の底面から起立し前記立上がり部と接合する傾斜面を形成しストッパ部とする。

【 0 0 0 9 】

さらにフィニッシュ感を付与するために、上記内容液注出容器において、中栓の注出筒外側に、外方に突出する膨出部を設けた係止リングを立設し、キャップの頂壁内面の密封リングの外側に、前記膨出部に係合し、内方に突出する膨出部を設けた係止リングを垂設

50

したことを特徴とする構成を採用する。

【 0 0 1 0 】

【 発明の実施の形態 】

次に、本発明の実施形態について、図面を参照して説明する。

本発明は、ガラスまたは合成樹脂によって成形された容器 A、合成樹脂によって成形された中栓 B およびキャップ C とから構成される。

図 1 , 2 に示すように、容器 A の容器口部 1 外周には、ネジ 2 と保持突条 3 が設けられており、口部上端は、縮径口部 4 とされその外周に嵌合突条 5 が設けられている。

前記ネジ 2 の上部始端のネジ切り始め部分には、60 度ないし 90 度近くの傾斜角をもった立上がり部 6 が形成されている。

10

【 0 0 1 1 】

図 3 , 4 に示すように、中栓 B は、前記容器口部 1 に被嵌する嵌着筒 10 と上壁 11、および容器口部 1 内周に嵌合される嵌合筒 12 とを具えており、嵌着筒 10 の内周は、嵌合突条 5 に係合する嵌合面 13 となっており、その下端には嵌合突条 14 が設けられている。

上壁 11 の上面中央には、注出筒 15 が立設され、その内周は注出孔 16 となっている。注出筒 15 の外側には、係止リング 17 が立設されており、その上端外周には、外方に突出する膨出部 18 が設けられている。

【 0 0 1 2 】

図 5 , 6 に示すように、キャップ C は、頂壁 20 と側筒壁 21 とを備えており、側筒壁 21 の内側には、嵌着筒 22 が設けられている。

20

嵌着筒 22 の内周 23 には、その中間部より下方に容器口部 1 のネジ 2 に螺合するネジ 24 が刻設されており、内周 23 下端部はネジ溝 24 a と同径の拡径段部 25 となっている。

ネジ 24 の上終端部には、ネジ溝 24 a 終端底面から起立し前記容器口部 1 のネジ 2 の立上がり部 6 と接合する傾斜面 26 が形成されており、該傾斜面 26 は、ストッパ部 27 となっている。

【 0 0 1 3 】

嵌着筒 22 に囲まれた頂壁内面 28 には、その中央部に前記注出筒 15 の内周に嵌着される密封リング 29 が垂設され、該密封リング 29 を囲んで、係止リング 30 が垂設されている。

30

係止リング 30 内周には、内方に突出する膨出部 31 が設けられている。

【 0 0 1 4 】

次に、上記構成による作用効果について、図 7 , 8 を参照して説明する。

中栓 B は、打栓によって容器 A の容器口部 1 上端に被嵌されるが、その際、中栓 B の嵌着筒 10 内周の嵌合面 13 が容器口部 1 の嵌合突条 5 に嵌合され、嵌合突条 14 は嵌合突条 5 の下面に係合し、嵌合突条 5 と嵌着筒 10 内周、嵌合筒 12 と容器口部 1 内周とは一定の締め代をもって嵌着される。

【 0 0 1 5 】

キャップ C は、螺合により容器口部 1 に締着されるが、締着にあたってキャップ C を回していくと、締着時には、キャップ C のストッパ部 27 の傾斜面 26 が容器口部 1 のネジ 2 の立上がり部 6 に衝接してキャップ C が位置決めされ、その際、密封リング 29 が中栓 B の注出孔 16 を一定の締め代をもって密封する。

40

【 0 0 1 6 】

キャップ C の下降に際して、キャップ C の係止リング 30 の膨出部 31 が、中栓 B に立設した係止リング 17 の膨出部 18 を乗り越えて下降し、キャップ締着時には、膨出部 31 は中栓 B の膨出部 18 の下側に係合する。

キャップが下降し、相互の膨出部 18 , 31 が接合すると、キャップの回動に抵抗感が生じ、膨出部 31 が膨出部 18 を乗り越えるときには、抵抗感は最大に高まる。

締着直前には、抵抗は弱まるので、使用者は抵抗感の変化によってキャップが完全に締着

50

したか否かを感じとることができる。

【 0 0 1 7 】

【 発明の効果 】

本発明は、上記のように構成されているから、次の効果を奏する。

キャップの位置決めを、容器口部に刻設したネジの上始端部の立上がり部と、キャップのネジの上終端部に形成した傾斜面の衝接により位置決めしているので、位置決めがネジの円周方向となり、ネジの軸線方向の位置決めよりも微細に位置決め位置を設定することができ、位置決め精度をあげることができるようになった。

また、ストッパ部は、それぞれのネジの始端、終端との間に形成されているだけであるので、ネジ自体は従来のものでよく、キャップの高さもとくに変えることなく、より低く設定することもできる。

10

【 0 0 1 8 】

中栓とキャップに膨出部を設けた係止リングを設けているので、キャップ締着時に使用者にフィニッシュ感を与えることができ、不安感を解消することができる。

係止リングの成形も、その作用がフィニッシュ感を出すだけであるので、寸法精度を高くする必要はなく、膨出部は、アンダーカットとして成形できるので、係止リングの成形が容易にできる。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 本発明の容器口部の縦断面図である。

【 図 2 】 容器の平面図である。

20

【 図 3 】 中栓の平面図である。

【 図 4 】 中栓の一部断面正面図である。

【 図 5 】 キャップの一部断面正面図である。

【 図 6 】 キャップの底面図である。

【 図 7 】 容器，中栓，キャップの組立断面図である。

【 図 8 】 容器口部のネジ上始端部とストッパ部との関係を示す説明図である。

【 図 9 】 従来の容器を示す組立断面図である。

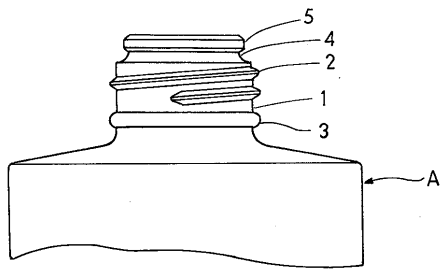
【 符号の説明 】

A , A 1	容器
B , B 1	中栓
C , C 1	キャップ
1 , 4 0	容器口部
2 , 4 2	ネジ
6	立上がり部
1 5 , 4 9	注出筒
1 6 , 5 0	注出孔
1 7 , 3 0	係止リング
1 8 , 3 1	膨出部
2 4 , 5 2	ネジ
2 4 a	ネジ溝
2 6	傾斜面
2 7	ストッパ部
2 9 , 5 5	密封リング

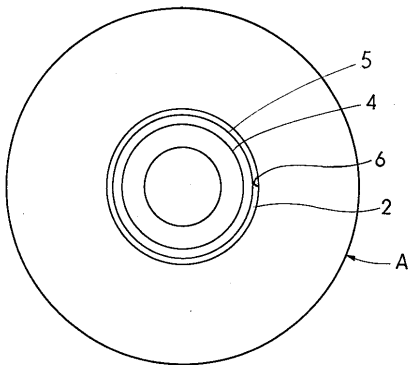
30

40

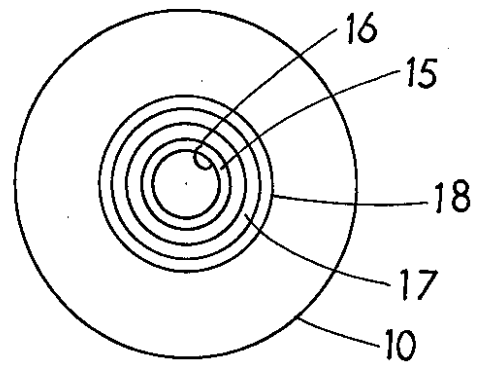
【図 1】



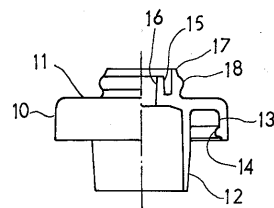
【図 2】



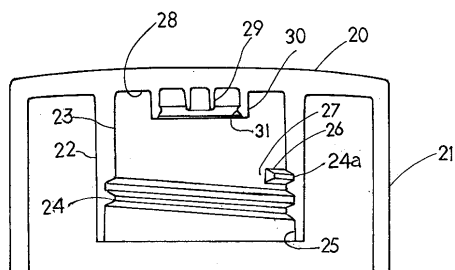
【図 3】



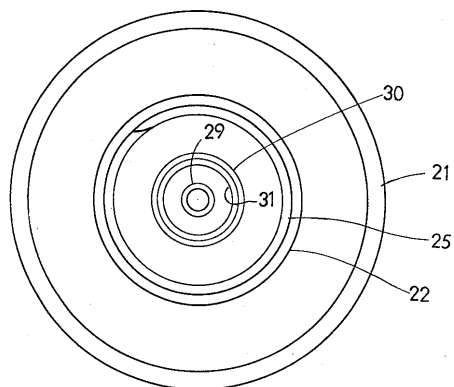
【図 4】



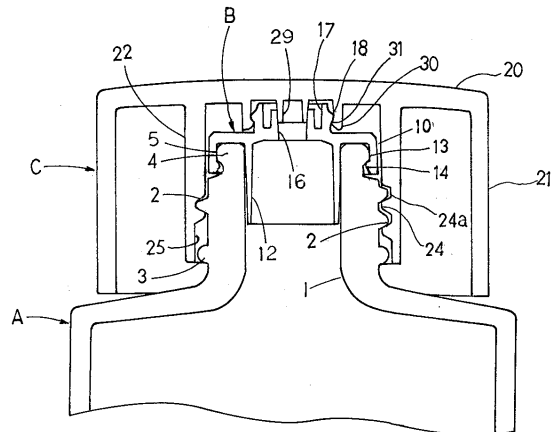
【図 5】



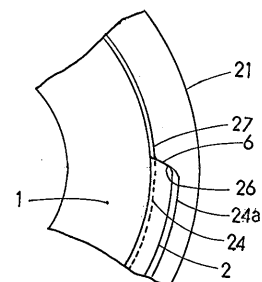
【図 6】



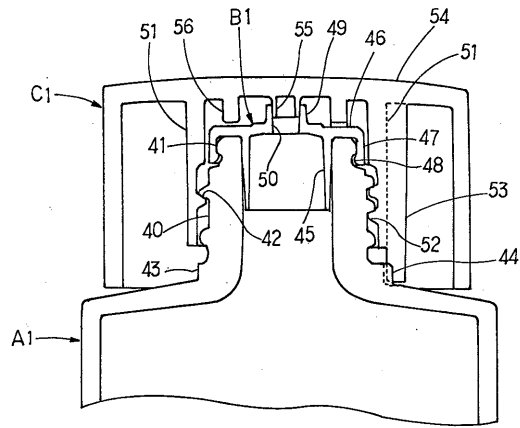
【図 7】



【図 8】



【図 9】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平07-277351(JP,A)  
実開平04-032950(JP,U)  
実開昭62-115367(JP,U)

- (58)調査した分野(Int.Cl.<sup>7</sup>, DB名)

B65D 41/04

B65D 41/34